

あなたの会社のメール 「誰でも名乗れる状態」になっていませんか？

DMARCは、自社ドメインを悪用したなりすましメールから
顧客・取引先・自社ブランドを守る仕組みです。



郵便局にたとえるDMARCの仕組み

① 住所・封蝋確認 (SPF・DKIM認証)



郵便局員が、送り主の住所に紐
付く氏名と封蝋（印）を確認。
(送信元IP・電子署名の検証)

② 名義の照合 (アライメント確認)

差出人リスト	
〇〇株式会社	example1.co.jp
△△株式会社	example2.co.jp
□□株式会社	example3.co.jp



送り主の氏名と、郵便局が持つ
送り主リストを照合。
(送信元ドメインの検証)

③ 怪しい手紙に対応 (ポリシー処理)



異常発見時は、定めたマニユアルに沿って厳正に対応。

③の対応（ポリシー設定）

① None（記録のみ）



記録し、宛先に送付
(=顧客が受信)

② Quarantine（隔離）



不審物として保管
(=顧客の迷惑フォルダへ)

③ Reject（拒否）



配達しない
(=顧客に届かない)

DMARC導入の 主なメリット

顧客・取引先の保護



なりすましによる詐欺や
情報漏えいを防止

ブランド・信頼の維持



自社ドメインの悪用を防ぎ、
企業イメージを守る

メール到達性の向上



迷惑メール判定を減らし、
自社メールを届けやすく

今すぐ
チェック！

設定が「None（記録のみ）」のまま放置されていませんか？

- DMARCポリシーの設定（Noneのままか？）を確認する。
- レポートを確認し、自社ドメインを名乗るメールを把握する。
- 把握できたら、Quarantine又はRejectへの移行を検討する。